

令和7年第12回議員定数等調査特別委員会 要点記録

開閉会日時	令和7年2月14日（金曜日）			開会	9:57		会議場所		別海町議会 委員会室 1	
				閉会	12:11					
委員の出欠	1 番	市川 聖母	出席	2 番	吉田 和行	出席	3 番	高橋 眞結美	出席	
	8 番	田村 秀男	出席	9 番	小椋 哲也	出席	11 番	今西 和雄	出席	
	12 番	松原 政勝	出席	13 番	中村 忠士	出席				
委員外の出席	議長		西原 浩					合計	1名	
事務局職員	局長		干場 富夫	主幹		木幡 友哉		合計	2名	
傍聴者数	一般		0名	報道関係者		0名		合計	0名	

会議に付した事件及び会議結果など

発言者			会議経過
委員長	12番	松原	9:57 開会
			出席委員8名、欠席委員0名、委員外1名、会期1日 開会挨拶
委員長	12番	松原	議事1 議員報酬に関する事項について
事務局	主幹	木幡	・議事の説明の前に1点報告がある。 本委員会で調査した内容に基づき作成した条例改正案は、1月31日開催の議会運営委員会で概ね了承された。 議会構成等に係る申合せ事項に関し、基本的には当特別委員会で協議した内容のとおりだが、大きく変更になった点として、選考委員会を廃止し、議会運営委員長候補を議長による選考とした。 その他、当委員会で協議した内容を基に議会運営委員会で決定した事項として、予算決算審査特別委員会に議長が加わる理由を明記した。 続いて、議事の説明に入る。 昨年6月から日常議員活動調を実施し、12月で半年となったので、暫定的に集計し、全国町村議会議長会が示す計算式で報酬を算定した。 算定結果は227,163円となっている。 今後、2委員会体制となった場合のデータも踏まえると、もう少し上昇することが考えられるので、現時点での参考値としてとらえてほしい。 なお、各議員から提出のあった報告書の内容について、疑義が生じている部分が多々あるので、追って個々に確認し、精査していきたいと思っている。
委員長	12番	松原	質疑
副委員長	8番	田村	・各会議の日数のカウント方法は、1回開催されたら1日とカウントしているのか。
事務局	主幹	木幡	・合計活動時間を8時間で割って算出している。
副委員長	8番	田村	・特別委員会や委員派遣など、実績があるのに空白となっている項目があるのはなぜか。
事務局	主幹	木幡	・金額算定には影響ないことから、便宜的に常任委員会など他の項目に算入している。 最終版では細かく振り分ける予定。
副委員長	8番	田村	・平均値算定の母数には全議員が含まれているのか。
事務局	主幹	木幡	・含まれている。
委員	2番	吉田	・議長の活動時間も含まれているのか。
事務局	主幹	木幡	・含まれている。議長は活動時間が多いため平均値は多少高くなっているかもしれない。

令和7年第12回議員定数等調査特別委員会 要点記録

副委員長 8番 田村

委員 13番 中村

事務局 主幹 木幡

委員 13番 中村

事務局 主幹 木幡

委員 13番 中村

事務局 主幹 木幡

委員 9番 小椋

事務局 主幹 木幡

委員 9番 小椋

副委員長 8番 田村

委員 3番 高橋

事務局 主幹 木幡

委員 3番 高橋

事務局 主幹 干場

委員長 12番 松原

委員 9番 小椋

副委員長 8番 田村

委員 11番 今西

委員長 12番 松原

委員長 12番 松原

委員長 12番 松原

委員長 12番 松原

事務局 主幹 木幡

・議長、副議長、委員長など役職ごとの活動量や、2委員会体制になった場合などの活動量を踏まえての精査が必要。

・政務活動費にはどのようなものが計上されているか参考に聞きたい。
・図書費、交通費、通信運搬費や、個人的に参加した会の会費を計上している方もいる。

・図書費の中には定期刊行物、例えば新聞などを計上している人はいるか。
・それはいなかった。
・全員調査に協力してくれているか。
・活動がないので提出しないと言っている方が1名、声かけはしているが、提出されない方が1名いる。

・未提出者は平均の算定から除いていないのか。
・除いていない。
・未提出者はノイズと捉えて計算から省くなどの方法を考えないといけないのでは。

除いた理由などは説明できるようにしておく必要はあるが。
・素直に調査協力者14名と記して、2名は協力してくれなかったとわかる用にするしかないのでは。

・議員活動は実績がないのかもしれないが、議会活動には実績が入っているのではないか。
・そのとおり。
・そうすると議員活動だけ省くというのはおかしいのではないか。
・活動しているが出さないのか、または活動していないので出さないのかで扱いは大きく変わらと思う。

病気で活動できなかった等の場合は仕方ないが、活動がないので省くということでは理由にならないのでは。

・報酬審議会での説明根拠として弱いのであれば、未提出者も含めて計算するしかないかもしれない。

・議長、副議長の活動時間を分けて計算するかどうかとも考えなければならないと思う。

・この調査だけで報酬額を決めるというわけではないので、このデータの有効な活用方法はこれから考えていく必要がある。

・報酬に関する議論と議員活動調査を始めた理由は、なり手対策を考えたときに、報酬が少ないということが一つの原因として問題視されたからであり、あくまでもこの調査結果は報酬の増を検討する上での資料の一つとして取り扱う必要があるのではないか。

・計算方法や活用方法は、今後さらに精査していくこととする。

10:26 休憩

10:45 再開

議事2 議員のなり手不足に関する調査について

・議員のなり手不足については、これまで12回の調査を重ね、行政視察も行うなど、ある程度進捗しているところ。

よって、最終報告に向けたまとめを進めていきたいと考えているので、これまでの調査で各委員が感じた、なり手不足の解消に関するポイントを上げていただきたい。

令和7年第12回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員 9番 小椋

・なり手不足対策は、広報・広聴活動がそのものだと思っており、議会のことを知ってもらうことと、議会に興味を持った人から声をくみ取るということに尽きる。

広報では、もっと幅広い層に見てもらえるように、YouTube等の情報発信を増やし、広聴では、年1回の懇談会のほか、町内会やイベントに加わるなどの活動を実施し、できればその先に、議会に興味を持ってくれた人を対象にした議員の学校のような活動も行っていきたい。

委員 11番 今西

・地域からの議員選出は続けていく必要があると思うが、地域に縛られなくなっていることも事実。

地域に出向いて、各々が議員になったきっかけなどを伝えることも有効。

また、報酬がもっと高ければ、後任を依頼する場合も頼みやすい。

委員 2番 吉田

・議員になりたくない人が多いのではないかな。

まずは、議会に興味を持ってもらうために、コミュニケーションの場を増やす必要がある。

報酬については、仕事量に対して不足がないと感じる程度であればいいと思う。

やはり気になる部分は、兼業についてだと思う。議員になったときに現在の職業が続けられるのか。議員の活動量が分からないからできないと思っている人に議会の活動量を伝えられる場や、議会の中を知る機会を増やす必要があると感じている。

委員 13番 中村

・兼業については手を打つ必要がある。別に仕事を持ちながら議会の仕事をできる体制が必要で、併せて、会社員の場合は雇い主の理解を得るための情報発信などが必要。

報酬については、立候補にはさほど問題ないとの意見もあったが、統計上確定的なことは言えないものの、おそらく町村議会議員の報酬は安く、ゆえに、なり手不足と併せて問題視されていると思う。

また、小中高生に対する主権者教育の強化が必要だと思った。これは、すぐに効果が出るものではないが、若いうちから地方自治に関する理解を深めることは、将来の議員のなり手の確保にとってとても大事なことであると思っている。

委員 3番 高橋

・実際、今の報酬額では働き世代の方には、兼業でなければ厳しいと思う。

生活できる額ではなくとも、ある程度高いほうがいい。

議会を知ってもらう努力を地道に行う必要がある。見やすい広報作り、議会から町民の集まりに飛び込む活動などが必要。

委員 1番 市川

・生意気かもしれないが、働き世代や子育て世代は、いかに町民にとって有効な活動ができているかが重要。

生活を削っても時間を削っても構わない。その会議が別海町のためになっているのかが重要だと考えている。

私自身、報酬でも福利厚生でもなく、やりがい重視して活動しており、若い世代はそこに重きを置いている人が多いと思う。

自分がどう変われるか、そして地域や町全体をどう変えていけるかといった部分が見えれば、議員になってみたいと思われるようになるのではないかな。

自分もその一員になりたいと思われるきっかけが見える化していかなければならないと考える。

令和7年第12回議員定数等調査特別委員会 要点記録

副委員長 8番 田村

委員長 12番 松原

委員長 12番 松原

事務局 主幹 木幡

委員 一同

委員長 12番 松原

事務局長 干場

委員 2番 吉田

委員 9番 小椋

委員 11番 今西

委員 13番 中村

委員 9番 小椋

委員長 12番 松原

委員長 12番 松原

委員長 12番 松原

事務局長 干場

委員 9番 小椋

委員 13番 中村

委員長 12番 松原

委員 一同

委員 13番 中村

事務局長 干場

・全国町村議会議長会が刊行している「なり手不足に潜む三つの危機」という冊子があり、そこに概ね網羅されているが、やりがい伝わらないことが影響している部分もある。

やりがいを伝える発信として、予算決算特別委員会のネット配信なども一つの手段。

後継者の育成方法も検討する必要があるし、広く参加してもらうためには報酬の改定も必要。

・これまで定数割れはしていないが、今後人口減少していったときにどうなるか分からない。勉強会など広報・広聴活動を行って住民参加の機会を増やしていく必要がある。

議事3 その他

(1) 中標津町行政視察報告書について

・前回会議の各委員の意見を踏まえて案をまとめた。修正箇所があれば意見をいただきたい。

・意見なし。

(2) 次年度視察地の選定について

・次年度の視察地として、北海道町村議会議長会に講師を依頼したいことと、現在、議会改革に取り組んで報酬や定数を調査しており、視察が可能な町村をピックアップしたので、候補地を選定してほしい。

・この先は定数と報酬の議論になるが、視察に行ってみることはあるのか。

・定数と報酬についてはもういいのではないかな。

行くのであれば、なり手不足の関係で議員の学校などの具体的事例を見学するなどいいのではないかな。

・報酬、定数は今後は別海町の現状をベースに議論を進めることが必要ではないかな。

・議論が進んできているので、有識者に意見を聞く程度ではどうか。

・講師を呼んで、当委員会の調査内容についてディスカッションをすることはできないか。

11:29 休憩

11:41 再開

・実際に現地に行ってみて、これまで調査してきた内容の補強として得られるものがあるとも考えられる。白老町などどうか。

・中止することは可能だが、行くとなれば、双方の都合があることから早めに調整する必要があるため、提案した。

・行くということであれば、議長会からは報酬、定数に関する有識者の意見をもらい、白老町には、なり手不足対策の流れで、広報・広聴に関する内容を視察をすることが個人的にはいいと思う。

・拒否するものでもなく、全く役に立たないということもないと思うので、議長会の有識者の意見が聞ける内容であれば、そのほかは正副委員長に任せていいと思う。

・中村委員の言うとおりで、正副委員長で内容を決定することとしていいかな。

・異議なし。

・行くとしたらいつ頃か。

・5月13日から15日までか、6月24日から26日までのいずれかが有力。

令和7年第12回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員	13番	中村	・この特別委員会で広報・広聴に関する調査を進めてきているが、全体のレベルアップのため、新しい広報・広聴常任委員会全体での研修をできるだけ早く受けることを提案したい。
委員	9番	小椋	・この特別委員会の委員と委員外で広報・広聴に関する考え方に温度差ができていると思うので、ギャップを埋める研修や経験は必要だと思う。 ・新体制になったらすぐに検討すべき事項だと考える。
委員長	12番	松原	(3)町民アンケートについて
委員長	12番	松原	
事務局	主幹	木幡	・以前に町民アンケートの方法について協議したが、具体的な情報を提示して行う必要があるとのことで保留しているため、アンケートの必要性和実施時期や方法について目途を付けたい。 例えば、1年間の日常議員活動調が終了した7月ごろに議会だよりへの折込みと町公式LINEを活用して実施し、地域めぐり懇談会で直接聞き取りを行うことが考えられるが、意見をいただきたい。
委員	9番	小椋	・8月発行の議会だよりまで、アンケート内容を固めるのは難しいのではないかな。
議長		西原	9月定例会後の議会だよりと地域めぐり懇談会を目安にしてはどうか。 ・全議員にも協議結果を先に伝える必要があるので、スケジュールはタイトすぎないほうがいい。
委員	9番	小椋	議員から団体などに直接アンケートを配りに行くことも考えたほうがいいと思う。
委員	3番	高橋	・団体とはどこを想定しているか。
委員	9番	小椋	
委員	2番	吉田	・アンケートの配布方法で、議員が手配りする分を用意してほしい。
事務局	主幹	木幡	
委員長	12番	松原	・アンケートについては、継続して調整していくこととする。
委員		一同	- ほかに何かあるか。 ・なし。
委員長	12番	松原	
委員		一同	・次回開催日は3月25日10時としたい。 ・異議なし。
委員長	12番	松原	
委員長	12番	松原	閉会挨拶
			12:11 閉会